

育課  
教指導

心通わせ友好を深める  
中国綿陽市青少年訪問団来庄



市長を表敬訪問

中国四川省綿陽市の青少年訪問団が7月30日から8月2日、3泊4日の行程で庄原市を訪れました。  
綿陽市教育体育局的姚定副局長を団長とする、児童生徒12人（小・中・高校生各4人）と引率者7人の計19人の訪問団は、滝口季彦市長を表敬訪問し、歓迎を受けました。  
児童生徒は7月30日から8月1日



までの3日間、市内の6家庭に2人ずつに分かれてホームステイし、食事や会話、観光などを通して、異なる文化や生活様式を体験。ホストファミリーの家族の温かさに触れながら3日間を過ごす中で、言葉の壁を越えて心を通わせ楽しく交流を深めました。  
8月1日の午後には板橋小学校を訪問。6年生が力強いよさこいソーランの舞で歓迎し、訪問団の児童生徒からは美しい歌声やピアノ演奏、詩の朗読などが披露されました。また、参加者全員で中国の歌「まつり花」を中国語で歌い、会場は和やかな雰囲気になりました。最後は、6年生が「一心太鼓」を体育館に響かせ交流会を終えました。  
経済技術友好協定を結んでいる本市と綿陽市は、友好協力事業として青少年訪問団を相互に派遣しています。両市間では本年度で8回目となり、両市合わせて103人の児童生徒が海を渡り交流しました。次世代

民課  
生活

犯罪・非行のない地域社会を目指して  
第62回「社会を明るくする運動」庄原市推進大会

「第62回社会を明るくする運動庄原市推進大会」が7月18日、庄原市ふれあいセンターで開催されました。  
この運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

を担う子どもたちが相互の交流を通して、文化の違いを理解し尊重し合う友好関係を深めています。



ホームステイで交流を深める



啓発活動の様子

大会では、広島保護観察所の佐藤比呂明所長が「更生への道」と題して講演。

佐藤所長は講演の中で、「罪を犯した人たちが更生し、立ち直るには地域社会の理解や支えが必要」と語りかけ、参加者は真剣に耳を傾けながらうなずいていました。

講演終了後には、保護司会の皆さんや推進大会参加者など合わせて30人が、市内のショッピングセンターで街頭啓発活動を実施。買い物客などに社会を明るくする運動のうちわやティッシュなどを配布しました。  
受け取った方は「この運動を初めて知った。大切なことだね」と話していました。



庄原格致高校吹奏楽部の演奏

戦没者に哀悼の意を表し、恒久平和を祈念する「庄原市戦没者追悼式」並びに平和祈念式典を8月22日、庄原市民会館で行いました。

遺族をはじめ来賓、一般の方、児童・生徒など約600人が参列し、本市出身の戦没者2925人のめい福と平和を祈りました。

式典で滝口季彦市長は「いかなる大義をかげようとも戦争は許されるものではありません。戦争の悲惨さと平和の尊さを深く胸に刻み、次の世代にしっかりと継承することが私たちの責務。戦争という言葉が過去の言葉となることを念じます」と

文化スポーツの全国大会などへ出場する選手を送り出す壮行式が7月17日、市役所で行われ、出場者をはじめ、関係者や家族などが出席しました。

式では、滝口季彦市長、竹内光義市議会議長が激励のあいさつを述べ、辰川吾朗教育長が、祝い金と花束を一人一人に手渡しました。

出場する28人を代表して、写真甲子園2012に出場の庄原格致高校3年の倉谷朱梨さんが「熱い思いを胸に戦います」と力強く決意表明し、大会での活躍を誓いました。



決意表明する倉谷さん



みんなでダンス

生涯学習

期待を背に大会での活躍を誓う  
全国大会等出場者壮行式

式辞を述べました。

続いて参列者全員で黙とう、献花を行い、戦没者のめい福を祈りました。

追悼吟詠、庄原小学校児童の合唱、口和本の会による朗読、庄原格致高等学校吹奏楽部による演奏も行われ、改めて平和の大切さを心に刻みました。

スポーツ推進委員の研修を目的とした広島県スポーツ推進委員研究大会が7月14日・15日の2日間、庄原市民会館と庄原市総合体育館の2会場で開催され、県内のスポーツ推進委員約300人が参加しました。

各市町の委嘱を受けて活動するスポーツ推進委員は、スポーツの実技指導やスポーツレクリエーションに関する

助言、生涯スポーツの普及啓発などを行っています。

初日は、委員の中から地域のスポーツ振興に寄与した方が表彰され、その後「笑いと健康」と題して東城町出身の落語家林家ひろ木さんによる講演が行われました。

2日目は、このところ人気が高まっているフラ・タヒチアンダンスを体験。くちわエンジェルのメンバー10人から、振り付けの仕方や身体の動かし方などダンスのコツを学びました。

会課  
福祉

反戦反核、恒久平和を誓う  
戦没者追悼式・平和祈念式典

生涯学習

地域のスポーツ振興へスキルアップ  
広島県スポーツ推進委員研究大会

新庄町にある庄原市総合交流拠点施設「食彩館しょうばらゆめさくら」の来場者数が300万人を達成しました。

これを受け7月21日、記念式典を開催し、300万人目の来場者、府中市在住の海内正友さん、寿子さん夫妻に、滝口季彦市長から花束と市内で採れた旬の野菜、広島牛、「古代米クッキー」などの特産品が贈呈されました。

「食彩館しょうばらゆめさくら」は、地元の農業・農村資源を活用し、



300万人目となった海内さんご夫妻(左)



多くの買い物客が訪れる人気の「朝どり市」

地域の活性化を図ることを目的として平成14年4月に開設。当初、年間約15万の来場者を目標としていたが、初年度から計画を上回る26万5千人が来場。その後も順調に来場者数が伸び、計画より9年5か月早い10年3カ月での300万人達成となりました。

今後も、「元気の出るみんなの市場」を目標に掲げ、豊かな農村資源を生かした地域農業の活性化を推進していきます。



講演する木村さん

「中国山地でクジラウオッチング」ができる「知的遊園地」として、市内で発見されたクジラの化石をはじめ、寄贈を受けた数多くの化石・岩石・鉱物標本を展示した県内でも数少ない自然科学系の博物館です。8月3日には、群馬県立自然史博物館の木村敏行さんによる「クジラ類の進化をたどる」と題した講演会も行われ、70人の参加者が実際の化石や標本を見ながら、太古の海に思いをはせました。



レリーフお披露目

日本有数のクジラ化石収蔵量を誇る比和自然科学博物館の地学分館が7月20日、多くの方々に見守られる中オープンし、記念の式典が催されました。

当日は、比和小・中学校の児童・生徒が祝いの演奏や舞を披露し、お祝いムードに包まれる中、地学分館の開館を記念して作成されたクジラのレリーフの除幕式が行われました。

業課  
農振

10年目で300万人達成  
食彩館しょうばらゆめさくら

和所  
比支

中国山地でクジラウオッチング  
比和自然科学博物館地学分館オープン